

電気の学習に取り組んできたものとして

研究開発部長 矢口 哲郎

このたびの、原発事故、そして計画停電という事態は、多くの人に大変な苦勞と不安と不満をもたらした。不安と不満を大きくした原因に、電気を使う立場の人、つまり消費者が、発電、送電、電気利用といったことについての見識が不足していたということがあったように思う。そのため、停電に対する対応や節電ということに多くの人にとまどっていたように思う。家庭での節電と言っても、電気について定量的感覚はおろか、定性的な感覚も持たない多くの人にとって、表面的な情報に惑わされるばかりのように思える。

電気の利用という点で、多くの国民、人々が勉強すること、勉強してもらうことがある。原子力発電を続ける、やめるなど〇か×かの単純なことではなく、現状をしっかりとつかんだ上で、電気をどのように作り利用するかを科学的に考えられる人間を増やすことは、大事なことだと思う。電気の学習を多く手掛けてきた当センターとしては、もっとそれに力をかけるべきだったかと、悔んでいる。

電気の利用、特に家庭の電気利用の定量的な内容、そして発電、電気を作ることがいかに大変か、そして電気を送るときの損失等、それも定量的な見方が出来るようになること、単なる情報でなく経験として身に付けることを目標とする教材を開発し、教育をしていくことを考えていくべきではないか。これからのプロジェクトにしたいものだと考える。ガスも含めてエネルギー利用ということでもよいかも知れない。簡単なことでもないかと思うが・・・。

JADECニュース83号(2011, 5)より